令和８年度
全国学力・学習状況調査の分析結果と今後の取り組みについて

令和８年１０月

小城市立砥川小学校

４月に行われた全国学力・学習状況調査（６年国語・算数）の本校の結果をお知らせします。児童質問（意識調査）については、数値が高かった項目と低かった項目を挙げ、分析と今後の取り組みについてまとめました。また、国語と算数については、学習指導要領の内容別の主な課題と改善に向けた取り組みについてまとめています。

【調査結果のポイント】

全国的な傾向として以下の事項が報告されています。

国語科

〇相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成考えることができている。

●引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題がある。

●考えとそれを支える理由や事例など情報と情報との関係について理解することに課題がある。

●情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことに課題がある。

算数科

〇示された情報を基に、数量の関係に着目して、条件に合う時間を求めることはできている。

●立方体の体積の計算による求め方について、一定数の児童は理解できているが、課題がある。

●体積の意味について理解することに課題がある。

●単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解し、その商から二つの広場のどちらが混んでいるのかを判断することに課題がある。

●基準量、比較量、割合の関係を正しく捉えることに課題がある。

●単位分数の個数に着目し、数直線上の１を表す目盛りを捉えることに課題がある。

【本校の全体の正答率について】

国語の全体の正答率は、国・県の平均と比べて「大きく下回る」が、算数の全体の正答率は、県平均と比べると「ほぼ同じ」で、全国平均と比べると「大きく下回る」です。

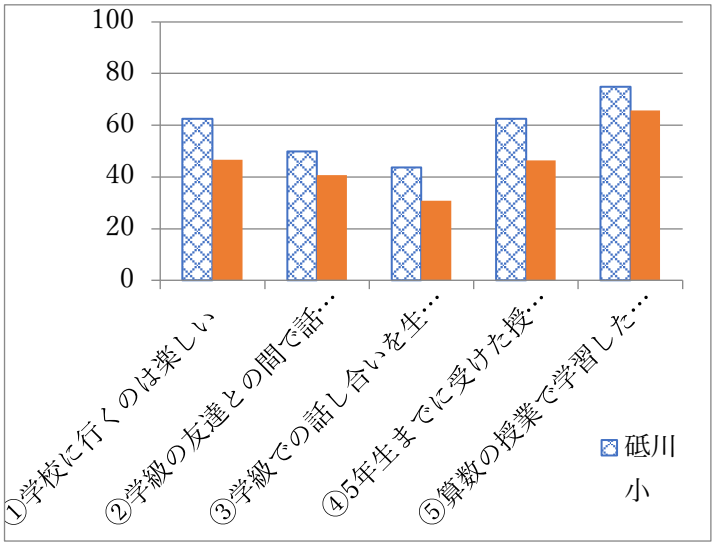
【今後の取り組みについて】

本校では、職員研修で今回の結果を詳しく分析し、今後の授業改善等について話し合いました。学力の向上を図るためには学校での学習だけではなく、家庭での学習も大切だと考えます。具体的な取り組み・お願いについては、「家庭学習のやくそく」をご覧ください。学習に対する取り組み方や学習方法を工夫することによって、より家庭学習の定着が図れます。本校の取り組みをご理解いただき、ご協力いただきますようお願いいたします。

◆「児童質問（意識調査）」

	調　査　の　項　目
①	学校に行くのは楽しい
②	学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり新たな考え方に気付いたりすることができている
③	学級での話し合いを生かして今自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる
④	５年生までに受けた授業では算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用することができている
⑤	算数の授業で学習したことは将来社会に出たときに役立つと思うか

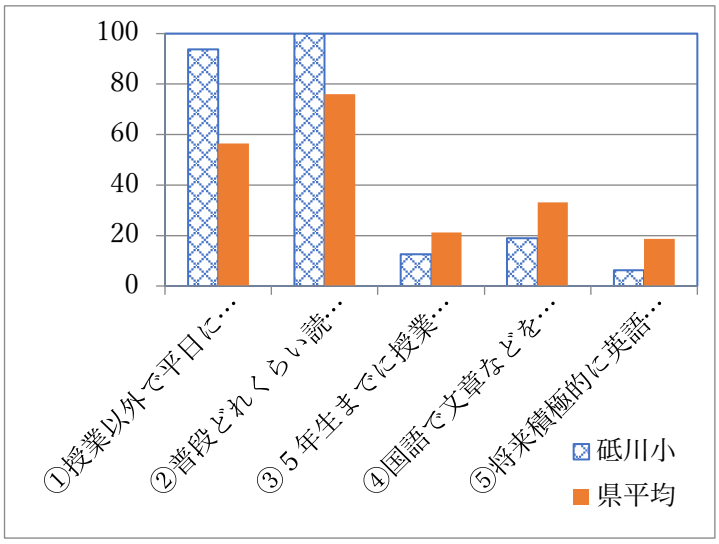
【　数値が特に高かった項目　】



【さらなる向上に向けた取組】
①授業改善や学校生活の充実に向けての取り組みを進め、一人一人が大切にされる環境づくりに努める。
②③授業での話し合い活動だけでなく、日常でも話し合う活動の充実をさらに図っていく。
④⑤算数科に限らず、各教科でも生活場面を想定した活用場面を検討し、指導の充実を図る。

【　数値が特に低かった項目　】

	調　査　の　項　目
①	授業以外で平日にどれくらい勉強しているか（１時間未満の児童の割合）
②	普段どれくらい読書しているか（30分未満の児童の割合）
③	５年生までに授業で、PC・タブレットのICT機器をどの程度使用したか（ほぼ毎日使っている児童の割合）
④	国語で文章などを引用して自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書いていたか（している児童の割合）
⑤	将来積極的に英語を使うような生活をしたり職業についたりしたいか（あてはまる＋どちらかといえばあてはまる児童の割合）



【改善に向けた取組】
①児童の家庭学習の習慣化（家庭学習ふり返り週間の設定、家庭学習の目標時間の提示、自学ノートの配布など）の取り組みや家庭での声掛け・協力をさらに呼びかけていく。
②他項目での結果でも図書室の利用回数が低かったので、図書室の日常使いにつながる声かけや仕組みをつくる。
③週３回以上までの割合は県平均を大きく上回っている。タブレットPCの持ち帰りを含めて今後の活用方法・活用場面を探っていく。
④文章の引用や図表から読み取ったことをもとにして文章を書くことへの苦手さがあるため、授業の中でスモールステップを意識した取り組みを継続していく。
⑤英語が好き・得意という児童の割合も低く、地域がら英語に触れる機会も少ない。授業以外でのALTの有効活用も考えていきたい。

◆令和８年度全国学力・学習状況調査《　６年生　国語科　》

全体の概要

・全体の正答率は、県平均を大きく下回る。
・観点別にみると、知識・技能は県平均を大きく下回り、思考・判断・表現は県平均をやや下回る。
・内容別にみると、「情報の扱い方に関する事項」は県平均とほぼ同じ、「話すこと・聞くこと」は県平均をやや下回り、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「書くこと」「読むこと」は県平均を大きく下回る。

観点	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取り組み
知識・技能	**【言葉の特徴や使い方に関する事項】** ●学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題は県平均をやや下回る。 ●話や文章の種類とその特徴について理解することができるかどうかをみる問題は県平均を大きく下回り、大きな課題がみられる。	**【言葉の特徴や使い方に関する事項】** ・漢字の宿題の書かせ方を工夫する。 （例：手本を見て書く→漢字を使った文章を自分で考えて書く。） ・教科書等で分からない言葉が出てきたら、中、高学年は辞書を引いて調べる習慣をつける。低学年では、具体物や動作を用いて確認する。
	【情報の扱い方に関する事項】 ◎考えとそれを支える理由や事例など情報と情報との関係について理解することは県平均を大きく上回っている。 ●情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことに大きな課題が見られ、県平均を大きく下回る。	**【情報の扱い方に関する事項】** ・助詞の意識づけをすることで、正確に情報や文章の意図を読み取れるようにする。
思考・判断・表現	**【話すこと・聞くこと】** ●資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる問題は、県平均をやや下回る。	**【話すこと・聞くこと】** ・スピーチタイム等で、「話す・聞く」の双方向の活動ができるようにする。 例：話し手がクイズ、聞き手が解答 話し手の工夫として、具体物を用いる。 （新しい活動を創出するのでなく、今ある活動にひと工夫を取り入れる。）
	【書くこと】 ●筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることに大きな課題が見られ、県平均を大きく下回る。 ●引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題に大きな課題が見られ、県平均を大きく下回る。	**【書くこと】** ・無回答率が多かったため、書く活動を増やす。 ・家庭学習習慣において、自学でテーマ作文を書く。 （担任・級外で協同・共同しながら活動を行う。）
	【読むこと】 ●文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題では県平均を大きく下回る。	**【読むこと】** ・既習事項について、学習の導入や終末の時点でしっかりと確認して、意識させながら文章を読ませる。 例：説明文の筆者の意図がどこにあるか、文章構成、助詞、接続詞等の使い方や意味など。

全体として、インプットとアウトプットの活動を取り入れるようにする。

◆令和８年度全国学力・学習状況調査　《　６年生　算数科　》

全体の概要
- 全体の正答率は、県平均とほぼ同じである。
- 観点別にみると、知識・技能は県平均とほぼ同じ、思考・判断・表現は県平均をやや下回る。
- 領域別では、「数と計算」「図形」「測定」「データの活用」は県平均とほぼ同じで、「変化と関係」は県平均をやや下回る。

観点	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取り組み
知識・技能	【数と計算】 ◎数を四捨五入して、概数で表すことや整数と小数の減法の計算をすること、単位分数の個数に着目し、数直線上の１を表す目盛りを捉えることは、県平均を大きく上回る。	【数と計算】 ・計算スキル、宿題などで個別の反復練習を行ったのがよかった。 ・誤答への個別指導を行うことで、理解が定着するように努めたのがよかった。
	【図形】 ●直方体の箱の形を構成する面について理解しているかをみる問題は、県平均を大きく下回っている。	【図形】 ・対応する面の性質を捉えることができるように、具体物で学ぶ機会を増やしたり、補助線などを書き込む習慣をつけたりする。
	【測定】 〇示された情報を基に、数量の関係に着目して、条件に合う時間を求めることができるかをみる問題は、県平均をほぼ同じ。	【測定】 ・図から数量関係を読み取る指導を数値と図を対応させながら行ったのがよかった。
	【変化と関係】 ●百分率で表された割合と比較量から、基準量を求めることは県平均をやや下回る。 ●基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶ問題は、国・県の結果でも大きな課題が見られるが本校は県平均をさらに大きく下回っている。	【変化と関係】 ・多様な考え方に触れる場面を大切にする。他者の考え方を自分でも使えるようにする。 ・図から式や数値の関係を把握できるように、書き込む習慣をつける。特に、基準となる量をとらえることができるようにする。
	【データの活用】 ●二次元の表から、条件に合う数を読み取る問題は、国・県の結果でも大きな課題が見られ、本校は県平均をさらに大きく下回っている。	【データの活用】 ・二次元表の読み取りだけでなく、実生活から自分で表を作り、分析できるような学習を行う。
思考・判断・表現	【数と計算】 ●異分母の分数の大小を判断し、その理由を数や言葉を用いて記述できるかをみる問題は、県平均を大きく下回っている。	【数と計算】 ・他者の考え方に触れ、自分でも使えるようにする。反復練習を行い、分数の意味を理解できるようにする。
	【図形】 ◎日常生活の問題を解決するために、図形を構成する要素に着目して直方体の三つの辺の長さを捉え、示された条件を基に、調べたい数量の求め方を数や言葉を用いて記述できるかをみる問題は県平均を大きく上回っている。	【図形】 ・複雑な面積や体積を求める学習で、図形の構成要素に着目させた指導を行ったのがよかった。
	【変化と関係】 ●単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解し、その商からどちらの方が混んでいるのかについて判断できるかをみる問題は、国・県の結果でも大きな課題が見られるが本校は県平均をさらに大きく下回っている。	【変化と関係】 ・立式したものに吹き出しを書いたり、表に戻って数値を確認したりして、数量関係を捉え、式の意味が理解できるようにする。
	【データの活用】 ◎日常生活の問題を解決するために、図形を構成する要素に着目して直方体の三つの辺の長さを捉え、示された条件を基に、調べたい数量の求め方を数や言葉を用いて記述できるかをみる問題は県平均を大きく上回っている。 〇示された二つの表から、集計に誤りのある項目を見付け、その根拠を表の中の数と言葉を用いて記述できるかをみる問題は、県平均とほぼ同じ。	【データの活用】 ・複雑な面積や体積を求める学習で、図形の構成要素に着目させた指導を行ったのがよかった。 ・表の学習では、印をつけたり、意味を考えたりすることで、必要な数値に着目できるようにしたことがよかった。

●学校全体で取り組むこととしては…

- 問題や式に書き込み、数量関係を捉えられるようにしたい。特に基準となる量：教科書の記述では「もとにする数」「一つ分」。
- 立式で終わるのではなく、式の意味を捉えさせたい。吹き出しを追記したり、図や表にもどって使った数値を探したりすることで、正確に式で表せるようにする。
- 他者の多様な考え方に触れる機会（話合い活動）の設定。他者の考え方に触れ、自分でも使えるようにアウトプットさせる。「黒板にある考え方をとなり同士で、３０秒話してみて。」
- 計算スキルや宿題などの反復練習をする。
- 振り返りを行うことで、学習内容の定着、話合い活動を中心とした学び方の自己調整する力を育てていきたい。